

寄稿

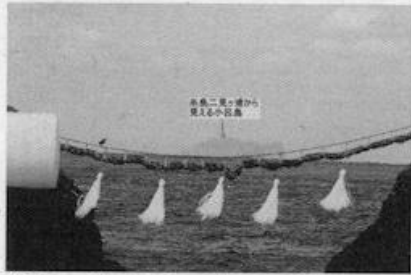
# 古事記の国生み神話と小呂島

福岡市立小呂小中学校教諭 山口哲也

## 「島の早急な遺跡調査が待たれる」

玄界灘に浮ぶ小呂島おのろしま。その福岡市立小呂小中学校に勤務する山口哲也教諭(42)＝理科担当＝は、この島が豊かな自然に恵まれているだけでなく、日本創生の国生み神話の主要な舞台ではなかったか、と考えるに至った。併せて近隣の相島、玄界島、大島、姫島、志賀島、二見ヶ浦(夫婦岩)の比定考察もあつて興味深い。以下、山口氏の寄稿である。

古事記の国生み神話は、イザナギ神とイザナミ神が天浮橋から天沼矛で海をかき混ぜたことから始まります。これらの神話は事実ではありませんが、神話は何かしらの史実が元となっていることは、多くの学者の指摘するところであ



糸島の二見ヶ浦から小呂島をのぞむ。小呂島が神聖視されていた？

「於露島」などの表記も見られますが、江戸時代もつとも一般的な表記だったのが「於呂島」という表記です。これは前記の二神が最初につくり降り立ったとされている「淤能基呂島」と表記が似ています。また、オノゴロ島に見立てた天の御柱とは、玄岐島(古事記では天比登都柱とも表記)ではないかと私は考えてい

まず、オノゴロ島ではないかといわれる候補には多くの島がありますが、これらの候補の中でピロウが自生しているのは小呂島だけです。ピロウはヤシの一種で、仁徳天皇のオノゴロ島を詠んだ詩に登場します。また古代天皇家に

「於露島」などの表記も見られますが、江戸時代もつとも一般的な表記だったのが「於呂島」という表記です。これは前記の二神が最初につくり降り立ったとされている「淤能基呂島」と表記が似ています。また、オノゴロ島に見立てた天の御柱とは、玄岐島(古事記では天比登都柱とも表記)ではないかと私は考えてい

また、二神がオノゴロ島をつくる時、海を矛で「こおろこおろ」と掻き回すところがあるが、これも小呂島に由来があると思います。小呂島に「御手水」という海岸から20mほどの高さの海に向かって開く、すり鉢状の地形をしている崖がありま

とつて最も神聖な植物とされていたことが、柳田國男や折口信夫らの民俗学者によつてあきらかにされています。小呂島のピロウは七社神社境内に自生しています。神社の拝殿は九州本土で



小呂島を始め、周辺の六つの小島を古事記の国生み神話と比定してみると、上の図のような解釈が出来るのではないだろうか。

次に糸島二見ヶ浦から見た小呂島が、前方後円墳の形にそっくりということですが、それも寺澤薫氏によつて提唱された纏向型前方後円墳の形です。寺澤薫氏の学説による

地球環境学研究所の秋道名譽教授の論文では、沖ノ島のピロウが祭祀目的で移植された可能性を説いていますが、小呂島も同様であったことが推測されます。



七社神社にはヤシの一種、ピロウが自生している。古代天皇家が最も神聖な植物としていた貴重なものだ。

環境プラント・建物ビルの運営メンテナンス企業

**MIKASA 三笠特殊工業(株)**

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目5-28  
TEL 092(431)3829 FAX 092(481)7310

割烹旅館 活魚料理

**満帆荘**

福岡市東区大字勝馬  
TEL 092-603-6649